

保健だより

平成28年6月号



徳島県立阿波高等学校 環境・厚生課

冬服から夏服に「衣替え」が行われましたが、天気によって気温の変化が大きいので、蒸し暑い日もあったり、肌寒い日もあったりで、衣服の調節や体調管理がむずかしい季節ですね。

規則正しい生活をする・栄養のバランスに気をつけるなどの自己管理をしっかりと、健康な日々を過ごしましょう。

6月は、2・3年生の歯科検診があります。

歯科検診の時に、学校歯科医の先生が使っている用語を紹介しますので、検診時の参考にしてくださいね。

知っておきたい歯科検診用語

歯の健康状態

C (むし歯・・・要治療)

CO (むし歯になりそうな歯・・・要注意)

0 (治療が終わっているむし歯)

歯ぐきの状態

G0 (少し炎症がある・・・要注意)

G (炎症がひどくなっている・・・要治療)

歯垢の状態・歯並び・歯のかみ合わせ・あごの状態

0・1・2で分類 2と判断されたものは要治療



右上

歯式の見方 検診のときに記録する歯の並び方の表示

左上

8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

(前歯)

右下

これは、永久歯の歯式です。乳歯はABCDEで表します。永久歯は左右に6～8本、上下合わせると28～32本あります。この歯式の歯の1つずつを検診で調べて記録しています。

左下

歯周病って？

最近、むし歯よりも歯周病が問題になっています。

歯周病の原因は、歯と歯ぐきの間にたまった歯垢や歯石です。

歯ぐきが腫れるのが「歯肉炎」、歯を支える骨まで炎症を起こすのが「歯周炎」です。

歯周病の予防には2つのケアが大切

セルフケア・・・みがき残しの多いところをしっかりとみがく。

歯と歯ぐきの境目・歯と歯の間・奥歯のかみ合う面と後ろ側
前歯の後ろ側

プロのケア・・・歯医者さんで、年に1～2回、歯垢や歯石をとってもらおう。

蚊媒介感染症って？



国内外に生息する蚊が媒介となって、ヒトにさまざまな症状をもたらす感染症をいいます。

地球の温暖化によって、今まで熱帯や亜熱帯地域にしかいなかった蚊が、どんどん北上し、日本にも近い将来新しい熱帯病が流行する可能性も高いと専門家の間では危惧されています。

代表的な蚊媒介感染症・・・

①日本脳炎 (コガタアカイエカ)・・・予防接種として日本脳炎ワクチンがあります。

②デング熱 (ネッタイシマカ・ヒトスジシマカ)

日本においては、海外で感染し帰国後発生する例がほとんどでしたが、2014年8月には、69年ぶりに国内感染した患者が発生しました。

③ジカ熱 (ネッタイシマカ・ヒトスジシマカ)

最近、中南米での流行が話題になり、特にブラジルでは母子感染による先天異常として小頭症の新生児が増えていることなどから、妊婦の渡航を控えるよう警告もされています。

④チンググニア熱 (ネッタイシマカ・ヒトスジシマカ)

主にアフリカ・南アジア・東南アジアでの感染が認められています。

1999年から2000年にはアフリカ大陸のコンゴでの5万人規模の流行が報告されています。

⑤マラリア熱 (ハマダラカ)

全世界で3～5億人の感染があります。日本での輸入例(外国で感染し日本で発症)は年間50人前後で死亡例もあります。日本国内での発症はありません。

⑥ウエストナイル熱 (西ナイル熱) (アカイエカ・ヒトスジシマカ・ヤマトヤブカ)

アフリカ・ヨーロッパ・中東で発生していたが、1999年にニューヨークで発見され話題になりました。今のところ日本国内へのこのウイルスの侵入は認められません。

こうした蚊媒介感染症は、以前ならそのほとんどが海外で流行するものと思っていましたが、海外への渡航の増加や交通網の発達で、海外から容易に病原体が侵入しやすい環境になり、いつどこでどんな感染症が発生するかわからない危険にさらされています。

ふだんから、海外でのさまざまな感染症の流行にも関心を持ち、海外渡航時には、必要な予防薬やワクチンの接種をしておくことも大切です。

また、これからの季節は、蚊や虫に刺されないように、手足の肌の露出を避け、虫よけ剤等を使用するようにしましょう。